

営農情報（水稻）

平成30年8月発行

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1 基本防除

病虫害防除所の調査結果によると、ウンカ類の発生量は平年より少ないとなっています。ただし、秋に坪枯れ被害をもたらすトビイロウンカは、田植え時期やほ場毎の発生の差が大きく、箱施薬剤が施用されたほ場でも、移植後1か月以上経過すると農薬の効果の低下に伴い増殖しやすくなります。

また、今年のカメムシの発生が多いため、十分注意が必要です。ほ場における発生状況を把握し適期防除を行いましょう。

◎本年は、下表のとおり8月16日から23日頃に防除を行います。

品種	剤型	薬剤	希釈倍数
全品種	粉剤	アプロードモンカットスタークルF粉剤DL	4kg
	液剤	アプロードモンカットエアー	1000倍
		スタークル顆粒水溶剤	2000倍
ツクシホマレなど (葉色が濃くコブノメイガ の被害がある場合)	粉剤	アプロードロムダンモンカットF粉剤DL	4kg
	液剤	アプロードロムダンモンカットエアー	750倍
		スタークル顆粒水溶剤	2000倍

液剤を使用する際の散布水量は、10a当たり100リットルです。

※ アプロード剤に対するトビイロウンカの感受性が低下しているため、スタークル剤と混用して使用してください。

※ ウンカ等への効果を高めるため、防除作業はほ場に水をためた状態で行います。

2 補正防除

本田2回目はウンカ、カメムシを第一に、いもち病を含めて防除の対象としています。

元気つくしとヒノヒカリは補正防除、ツクシホマレは基本防除です。

※出穂してからの畦畔の除草は禁物です(カメムシの本田への飛び込みを助長するため)

品種	防除時期	薬剤(全品種とも粉・液いずれか)	希釈倍数
元気つくし	8月16～19日頃	(粉剤)	4kg/10a
ヒノヒカリ	8月25～28日頃	ブラシントレボン粉剤DL	
ツクシホマレ	8月30日～ 9月2日頃	(液剤) ブラシントレボン水和剤	500倍

液剤を使用する際の散布水量は、10a当たり100リットルです。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!